

ふるさとへの愛着と誇りをもつ子供の育成を目指して
～地域すてき再発見の旅～

1 はじめに

本校は昨年度創校 150 周年を迎えた歴史ある学校であるが、児童数の減少に伴い今年度で閉校し隣校と統合する。そこで、総合的な学習の時間や生活科の時間に「ふるさと学習」を行うことで、本校や校区のよさを見直し、誇りをもってほしいと願った。昨年度までの研究の成果を踏まえ、今年度は地域に活動の場を広げ、地域の方々との交流を通して対話的・協働的に学び、考えを深めていく子供の姿を期待した。昨年度は相手に思いや考えが伝わるようにまとめたり表現したりする場が少ないことが課題であった。今年度は学びの成果を地域の方々に発表したり地域のために自分たちのできることを実践したりする機会を積極的に設け、双方向の交流を充実させたいと考えた。そうすることで、問題発見、解決能力の育成を図ることができるであろう。学校や地域を支える方々の思いを知ったり、「地域のすてき」を発見したりすることで、地域への愛着や感謝の気持ちをもって閉校を迎えたい。

2 活動の実際

- 1年生生活科 「秋のおもちゃをつくってあそぼう～保育園年長さんとの交流をとおして～」



【あきみつけー太閤山ランド】 【試行錯誤しながらアイデアを出し合う子供たち】

生活科の時間に、「あきみつけ」で見つけた材料を使っておもちゃづくりをした。材料は、1、2年生が太閤山ランドに校外学習に出かけ見付けてきたものや来年度統合する放生津小学校の1年生との交流学习で新港の森で見つけたものを使用した。また、自分たちがよく遊んでいる近くの三日曾根公園のどんぐりや松ぼっくりも入れたいという願いも生まれ、自分たちがよく目にしている材料も加えた。校区にある保育園の年長児を招待して遊んでもらうという目当てがはっきりしていたおかげでたくさんの材料が集まった。

1年生の子供たちは、年長児に楽しく遊んでもらうためにはどうしたらよいのか考え、またお互いにアドバイスし合いながらおもちゃをつくった。完成したおもちゃで自分たちが遊んでみると、「①おもちゃが壊れて困った ②

遊び方が難しかった ③場所が狭くて危なかった」など、実際に遊んでみて問題点があることを発見した。そこで子供たちは、年長児が楽しめるおもちゃにするため、「丈夫」「簡単」「安全」「楽しい」の4つのキーワードを合言葉に試行錯誤を繰り返しながらおもちゃを完成させた。

交流会当日は、年長児のお兄さんお姉さんとして自信に満ちあふれた表情でおもちゃの遊び方を説明すると共に、「楽しかった」「またやりたい」「3学期にまた会いたい」という年長児の声を聞いて、満足感をいっぱい味わうことができた。



【年長児と遊ぶ子供たち】

○ 2年生生活科 「まち探検～放生津小学校の2年生に新湊地区のすてきを伝えよう～」



【自分たちの住んでいるまちの「すてき」を調べる子供たち】

本校区は、万葉線で電車通学してくる子供もおりとても広い。明治6年3月に開校した本校は今年で151年の歴史があり、海運業で栄えた町並みや北前船の富によって寄進された神社仏閣が多く建ち並ぶ中心に位置している。また、昭和、平成、令和といった時代を彩る和菓子屋や洋菓子店、建造物がたくさんあり、まち探検教材の宝庫である。2年生の子供たちは、自分の家の近所にある自慢したい場所や自分の好きなところを紹介し合い、自分の住んでいる新湊地区をもっとすきになろうとまち探検を行った。

調べたことを10月に行われた学習の発表会で家族や地域の人に紹介し、たくさん褒めてもらった経験から、4月に一緒になる放生津小学校の2年生にも紹介することにした。交流会では放生津小学校の2年生から「放生津地区にないものがたくさんある」「おもち屋さんやケーキ屋さんがいくつもある」「お店の人が親切そう」「新湊のまちに行ってみよう」といった感



【放生津小との交流会の様子】

想が出され、実際に足を運んで地域の人とふれあった経験も合わせて、自分たちの住んでいるまちのよさを改めて感じ取ることができた。

○ 3年生 総合的な学習の時間 「わたしたちの祭り自慢」



【新湊博物館で獅子頭にふれる】



【講師を招いて曳山祭り調べ】



【のじた踊りを披露する3年生】

子供たちが住んでいる新湊地区は、春には獅子舞祭り、夏にはのじた祭り、秋には曳山祭り、冬には起舟祭と数々の行事があり、祭りの宝庫となっている。特に春の獅子舞祭りには3年生児童の半分が参加し、伝統行事の伝承に大きく貢献している。地域には新湊博物館があったり、獅子舞や曳山祭りに携わる方も多くおられたりして、人的・物的環境も整っている。

子供たちは、新湊に伝わるお祭りや風習を調べたり、ゲストティーチャーを招いて曳山祭りの歴史や祭りを伝承していくことの苦労話を聞いたりする活動をとおして、地域に伝わる伝統行事と文化について関心をもつとともに、地域の人々の祭りにかける熱い願いを知り、自分たちも大切に守り続けて行きたいという思いをもつことができた。

また、総合的な学習の時間で調べたことや自分たちが感じた思いをまとめ、学習の発表会でお世話になった方々や家族、地域みなさんに披露した。参加した方々から「六渡寺の獅子舞は富山県一なんだね」「曳山の歴史や人々の願いにはどこの地域にも負けないものがあるね」「祭りはみんなの宝だね」という感想を聞き、地域に伝わる祭りは自分たちの自慢であるという思いを深めることができた。



【町内曳きに参加する子供たち】

○ 4年生 総合的な学習の時間 「守ろう！新湊の宝 ～みんなの力で～」



【ごみ拾いをする子供たち】



【講師を招いて環境学習】



【新湊ごみ0作戦展開中の子供たち】

3年生までの学習で、新湊や射水市の「すてき」を探してきた子供たちは、自分たちの身の回りには「宝」がたくさんあることを学んでいた。4年生の最初の総合的な学習の時間に、公園や内川等の豊かな自然や伝統的な文化、憩いの場となる建物や生活を支えてくれている人々等について、楽しそうに語る子供たちからは、ふるさとを誇りに思い、愛着をもっている気持ちが強く感じられた。しかし、ある日子供たちが挙げた宝の1つである三日曾根公園に、ポイ捨てされたごみがたくさんあり、このままではいけないと感じた子供たちの新

湊の宝・環境に目を向けた取り組みが始まった。

ごみを拾った数日後に、またごみが散乱している事実を受けて、自分たちだけでは、地域の宝を十分に守れないことに気付いた子供たちは、学校や地域の方々の力を借りることが大切だと考えた。公園に簡易的なごみ箱や看板を設置するため市役所に問い合わせたり、学んだことや考えたことを全校児童に広めたりする活動に展開した。「新湊ごみ0作戦」と銘打った活動は、通学路に落ちているごみを学校の玄関で回収するもの。担当の子供たちは、あいさつとともに、「瓶・缶はこちらです!」「ご協力ありがとうございます!」と声を張り上げて活動に取り組んだ。子供たちの思いが通じたように、三日曾根公園の近所の方は、子供たちが設置したごみ箱の管理に当たってくださるなど、活動に広がりが見られた。



【成果を発表する子供たち】

この活動の成果は学習の発表会で紹介され、その後も庄川と小矢部川の河口がある中伏木・六渡寺の海岸清掃や「ごみ0作戦Ⅱ」等、新湊の宝を守る活動は現在も続けられている。

○ 5年生 総合的な学習の時間 「わたしたちのふるさと自慢」



【講師を招いて水産業の学習】



【せりを見学する子供たち】



【子供たちが開いた感謝の会】

水産業の盛んなまちに暮らす一人として、水産業の大切さをより実感してほしいという願いのもと学習は進められた。水産業について詳しく学ぼうと地元の漁師や漁業協同組合の方々を招いて、漁のスケジュールや消費者のことを考えて漁をしていること等、分かりやすく教えてもらった。また、全国ニュースで取り上げられたシロエビ漁のプール制についても学び、富山湾にしかない恵みの資源と漁師の生活を守りながら進められている取組に子供たちからは「工夫されていてすごい」「全国のお手本になっているなんて自慢だ」「持続可能な取り組みでSDGsにつながる」といった感想が聞かれた。

実際にシロエビを食する活動も家庭科の学習と合わせて栄養教諭と行き、シロエビの唐揚げと加工したシロエビ小判を食べた子供たちからは、「甘くておいしい」「カルシウムとミネラルがたっぷり入っている」と富山湾の宝石に舌鼓を打った。栄養教諭は、「地元こんなおいしいものがあることは幸せなこと。新湊はすてきな町だね。ふるさとを大切にしてほしい」と話し、子供たちは深く頷いていた。

子供たちはこれまでの成果を発表したいと漁師や漁業協同組合の方々に感謝の会を開いた。また、学習したことをいろいろな人に知ってもらうためメディアを活用したいという意見が出され、新聞社やテレビ局にも取材してもらった。感謝の会は自分たちで作った賞状やメッセージカードを渡し、能登半島地震で暗いニュースが続い



【富山湾の宝石】

ていた漁業関係者に笑顔になってもらえたことで、子供たちもうれしそうしていた。自分たちが考えた発表を水産業に関わる方々に伝えることができ、子供たちは達成感を抱いていた。

○ 6年生 総合的な学習の時間 「新湊パワーアッププロジェクト」



【講師を招いての学習】

【新湊パワーアッププロジェクト考え、全校集会で紹介する子供たち】

6年生は、総合的な学習の時間において今年度で閉校を迎える年に「新湊パワーアップ大作戦」と題して新湊小学校の歴史について学習をした。新湊小学校に勤務された3名の先生方をゲストティーチャーにお招きし、先生方が過ごされた学校の当時の様子や新湊小学校の閉校への思いを聞くことができた。調べただけでは分からない事実や先生方の思いを直接聞いたことで、子供たちの閉校に対する思いが一層深まった。

次に、新湊小学校最後の6年生として保護者や地域の方の期待に応えたいと考えた子供たちは、自分たちにはどんなことができるだろうと考え始めた。これが「新湊パワーアッププロジェクト」に発展した。いつも学校にボランティアに来てくださっている方からは、挨拶の大切さや小さなことでも続けることで大きな力になること、一步踏み出して挑戦すること等、貴重な話を聞くことができた。また、射水商工会議所青年部の方々には、新湊や射水をより住みやすい町にするため、そして笑顔が増えるようにするために様々な活動をしていることを教えてもらった。「子供たちには、新湊の魅力を知り、発信して欲しい」という青年部の方々の熱い思いを聞かせてもらい、貴重な学びの場となった。現在、子供たちは「新湊パワーアッププロジェクト」を継続し、どんなことができるのか自分事として具体的な活動に結び付けようと張り切っている。卒業に向けて、閉校に向けて、中学校に向けて、未来のまちづくりに向けて、子供たちの活動を見守っていきたい。

3 おわりに

閉校の年を迎え、今年度は学びの成果を地域の方々に発表したり地域のために自分たちのできることを実践したりする機会を積極的に設けた。双方向の交流を充実させることをねらいにスタートした「地域すてき再発見の旅」は、地域の方々の協力のおかげもあり子供たちは、新湊地域のよさを見つめ直し、自分たちも地域の一員としてよさや歴史、文化を受け継いでいきたいという思いを高めることができた。体験的な学習を繰り返すことで地域に愛着をもったり、地域に生きる一人としての自覚が高まったりする姿を見ることができた。本校は今年度で閉校を迎えるが、統合校においても今回の学習だけに留まらず、これからも自分たちの地域を大切にする、ふるさとに誇りをもつ子供の育成に努めていきたい。